

愛・地球博記念公園の利用者特性に関する調査研究

名城大学 学生会員 山田 真士

名城大学 フェロー 松井 寛

1. 本研究の目的と背景

愛・地球博記念公園の前身である愛知青少年公園は、青少年の健全な育成を図るため、1960年、愛知県により開園された青少年野外活動施設である。愛知青少年公園の利用者は年間240万～290万人程度を推移しており、愛知県におけるレクリエーション施設の入込数では最も多い公園である。その後、2002年3月31日に2005年日本国際博覧会準備工事のため閉園。日本国際博覧会後、長久手会場跡地を活用するためにと、万博の事績を残すために記念公園が開設されることになった。

本研究の目的は青少年公園時代の利用者特性を把握し、万博開催後の記念公園の第1期開園時までの利用者の変化と特性を把握することを目的とする。

2. 愛知青少年公園と愛・地球博記念公園

愛知青少年公園は明治100年記念事業の一環として建設され、青少年の健全育成を図ることを目的に開園された青少年野外活動施設であり、利用者は年間240万～290万人程度を推移しており(図1)、主な利用者は名古屋市、豊田市、長久手町等公園の近隣の住民や県内からの利用者が多い。

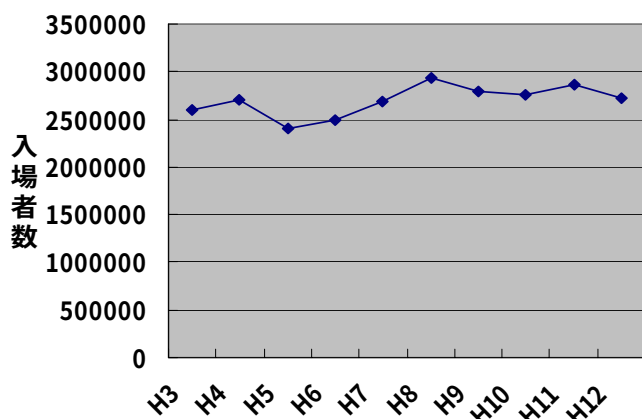


図1 一人当たり都市公園面積の推移

公園へのアクセス方法として自動車、団体はバス利用が多く、公共交通は、路線バスとして、地下鉄藤が丘駅から運行、また、長久手町の巡回バス(Nーバス)が運行している。愛・地球博記念公園の基本方針は、

- ・ 日本国際博覧会の理念と成果を継承する都市公園
- ・ 愛知青少年公園の歴史を活かした都市公園
- ・ 新しいニーズに対応した都市公園
- ・ 多様な自然環境を育む都市公園

である。愛知青少年公園と愛・地球博記念公園の主な施設を表1に示す。

表1 主な施設

名称	愛知青少年公園	愛・地球博記念公園
主な施設	愛知県児童総合センター	
	愛知国際児童館	
	温水プール	
	アイススケート場	
	野球場	
	文化施設	日本庭園
	図書室	自然体感遊具
	ちびっ子サイクリング場	大観覧車
	児童遊園地	森林公園
	宿泊棟	フィールドセンター
	会議室	愛知記念館
		サツキとメイの家
		キャンプ場

3. アンケート調査と概要

本研究の調査対象は愛・地球博記念公園の公園利用者を対象に利用者無作為に選び、直接聞き取り調査を行った。調査日は2006年10月14日(土)の14:00～17:00である。アンケート内容は個人属性、アクセス方法・時間、万博の来場の有無、青少年公園との比較、施設の利用状況・感想である。調査後アンケートで得られたデータを基に、分析・考察を行い、利用者特性を把握する。アンケート調査概要・結果を表2に示す。

表2 調査概要・結果

対象公園	愛・地球博記念公園 (通称:モリコロパーク)	
対象公園概要	・全体敷地面積約190ha(第1期開園時約26ha) ・駐車場規模 740台 ・開園時間 7月から10月まで 8:00～19:00 11月から3月まで 8:00～18:30	
調査日	2006年10月14日(土)	
調査方法	公園利用者に直接聞き取り調査	
調査項目	Q1:住ま(個人属性) Q2:構成(個人属性) Q3:主要交通手段 Q4:所要時間 Q5:万博の来園の有無 Q6:青少年公園の来園の有無	Q7:青少年公園の来園目的 Q8:記念公園と青少年公園の比較 Q9:利用した施設 Q10:気に入った施設 Q11:入退園時間
調査結果	有効データ/全データ 303/333	

4. アンケート調査結果

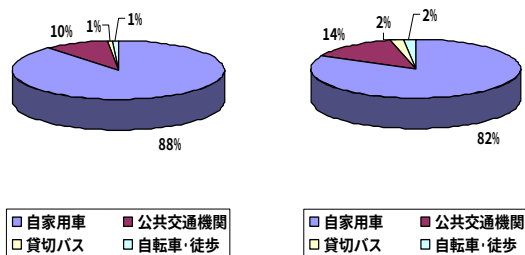


図2 交通手段(青少年公園)

図3 交通手段(記念公園)

図2,3より自動車の利用率は若干ながら減少しており公共交通機関の利用率が増加傾向にある。この公共交通機関の利用率の増加の大きな要因として、万博開催における公共交通機関の整備やリニモの導入であると考えられる。

滞在時間

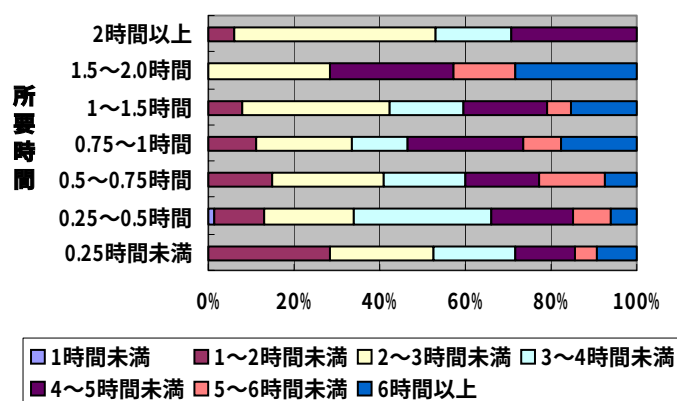


図4 滞在時間と所要時間

基本的に公園までの所要時間と滞在時間は比例していることがわかる。これは公園利用者の意識として所要時間が短いと「いつでも来園できる」や「時間があるから」という考えで滞在時間が短くなっていると考えられる。

5. 青少年公園時代との比較

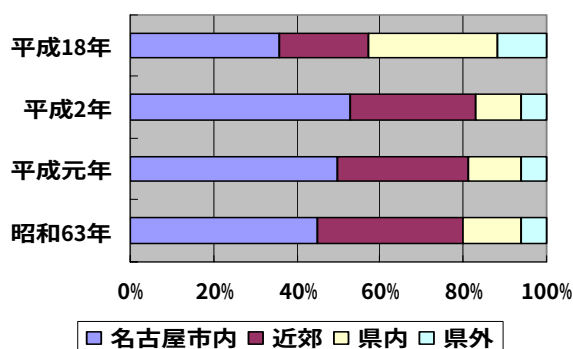


図5 利用者の住まい

図5より、愛知青少年公園時代に得たデータと今回の調査結果を比較すると、昭和63年から平成2年にかけて名古屋市・近郊の住民の利用率が増加傾向にあるが、愛・地球博記念公園開園後の利用者は愛知県内、県外の割合が増加しており、利用者はより広域的になったと言える。

6. コレスポネンシ分析

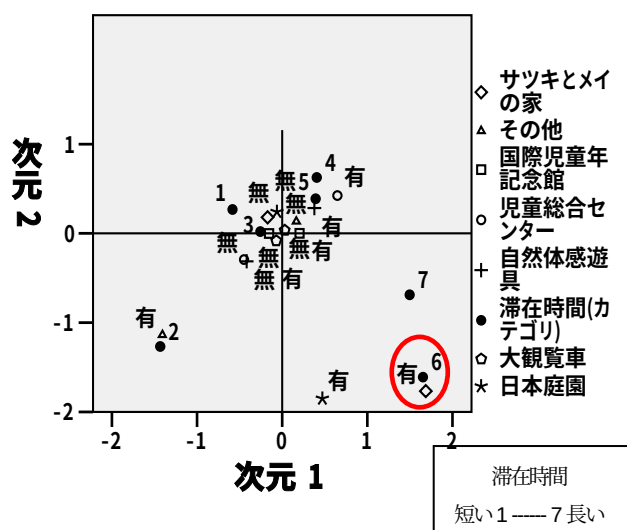


図6 コレスポネンシ分析結果

滞在時間と利用した施設の関係性についてコレスポネンシ分析を用いた結果、サツキとメイの家を利用した公園利用者は滞在時間が長時間になるという傾向にある。

7. 結論

本研究では、都市公園である愛・地球博記念公園の利用者の特性について明らかにし、また愛知青少年公園時代と比較することで、公園利用者の変化と日本国際博覧会開催がもたらす影響について明らかにし、公園利用者の特性が得られた。その結果は以下のとおりである。

- ① 万博開催の影響を受け、公園の存在を知ったことにより、愛知青少年公園時代に比べ、より広域からの公園利用者が増加した。
- ② 道路整備により自動車での短時間のアクセス、そして公共交通機関の整備によりアクセス方法が充実した。
- ③ 施設、アクセス、環境の向上により、安心して利用できる公園として家族・友人での来園が増え、利用者のニーズに対応している。
- ④ サツキとメイの家を閲覧した利用者は長時間滞在する要因となっている。

今後の課題として、平成19年3月に第2期開園し、今後さらに利用者の変化がみられるため、の利用者特性の変化を把握し愛知青少年公園時からの経年変化を把握する。

最後に本研究を進めるに際して、資料提供をしていた愛知県公園緑地課に感謝の意を表します。

【参考文献】

- 1) 松井 寛/深井 俊英
『新編都市計画 1995.7』
- 2) 愛知県建設部公園緑地課
『愛・地球博記念公園 暫定基本計画 2006.2』
- 3) 財団法人 愛知公園協会
『愛知青少年公園 三十年のあゆみ 2000』